

北ア核心部を歩く 山また山の大縦走 太郎平~黒部五郎岳~水晶岳~烏帽子岳

実施日	2013年8月3日(土)~8日(木)
天候	8/4雨-曇り 8/5雨 8/6雨-曇り 8/7快晴8/8晴れ
C L	涌井 良明
S L	遠井 謙策 / 中村 友子
会計	渋谷 京子 / 中村 友子
参加者	涌井良明、鈴木政三、山崎富美 恵、鈴木恵美子、石附智江、渋谷 賢寿、渋谷京子、伊藤久雄、 石原勝正、宇野輝代 計12名
費用	63,430円 (帰路JR新宿起算) 経費詳細は省略
タイム	8/3 池袋(7:20高速バス)富山駅(1 4:40)富山地鉄ホテル 泊
8/4	富山駅(5:30バス)折立(7:30~7:55)休 憩(8:47~8:55)三角点(9:50~10:1 0)1980m(11:00~11:23)五光岩 ベンチ(12:05~12:30昼食)太郎平 (13:30)太郎平小屋 泊
8/5	太郎平(6:25)P2578(7:23)北ノ俣岳(8 :35)中ノ俣乗越手前(10:05~10:1 15)黒部五郎岳肩(12:00~12:10) 黒部五郎小屋(14:00) 泊
8/6	黒部五郎小屋(6:10)三俣蓮華岳巻道 分岐(7:44)三俣蓮華岳(8:30~8:4 0)三俣山荘(9:30~10:38)鷲羽岳 (12:12~33)ワリモ岳北分岐(13: 35)水晶小屋(14:20) 泊
8/7	水晶小屋(5:35)水晶岳(6:16~6:40)水 晶小屋(7:10~7:35)東俣乗越(8:1 6~26)真砂岳手前鞍部(9:40~9:5 5)野口五郎岳(11:00~11:50)烏 帽子小屋(14:50) 泊
8/8	烏帽子小屋(5:35)烏帽子岳(6:30~6:4 0)烏帽子小屋(7:15~7:35)ブナ 立尾根三角点(8:20~30)休憩(9: 57~10:05)水場(10:25~10:45)高 瀬ダム(11:20~11:25タクシー)薬師 の湯(11:55~13:40タクシー)信濃大 町駅(13:50~14:13JR)松本駅(15: 09~15:19あずさ24)新宿(18:09)

今年の夏山は山中4泊の北アルプス大縦走となったが、想定外の異常気象?に翻弄され前半のダイヤモンド部分は煌びやかさに欠けるものとなったが、後半の裏銀座はそれらしい魅力全開となった。ちょっとした?(ちょっとじゃない)アクシデントや夏でも寒い北アの神髄を経

験した。それでもメンバー全員この山行に向けた事前の準備山行やトレーニングの効果もあり、述べ5日間に及んだ北アルプスど真ん中の大縦走をほぼ予定通りに完歩できたことはメンバーはもとより会にとっても会心の山行のひとつと云って良いかも知れない。っと今は自画自賛しておきたい気分でもある。

8/3 夏休みの土曜日で道路渋滞もあって富山駅へは50分程遅れて着いた。折から富山市は祭りの最中、夕食までよさこいとやまの流し踊り見物や明日への休養などで過ごし、地元産魚介料理の夕食で翌日からの歩きに備えて快適なホテルの一夜を過ごした。

8/4 5時半ホテルセットプランの折立行直通の地鉄バスで折立へ向かう、天気は今一つ前方の黒い雲がいやらしい。途中から降り出した雨は折立に着いても止まず、雨具姿でのスタートになった。

三角点に着く頃には雨も止み、視界も少し

ずつつ良くなってくる。時折見せる山肌や足元の花を楽しみながら太郎平小屋へ。例によって小屋前の歓談~・・・トッシーズンで宿泊者は250人とかなりの混雑だった。夕方からはまた雨模様となっていた。

8/5 雨は落ちていないが一面どんよりガスが立ち込めている。このまま降らなければ有難い

のにも思いつつ、小屋を後にするが、太郎山付近で降り出した雨に今日も昨日に続いて雨具での行軍になった。と

なると周囲の眺めも殆どなくフードをたたく雨をBGMに足元に注意をしながら北ノ俣岳を目指す、P2576m越して、右から神岡新道を合わせると北ノ俣岳だ、雨と冷たい風に休憩もままならず通過、風の来ない尾根の東側で休んで先へ進むが、本降りのままの雨は止む気配もない。晴れていれば花と展望のそれは素晴らしい稜線歩きが満喫出来るであろうと思える道を辿っていく。

岩塊の赤木岳を越していくつか登降を繰り返して、中俣乗越付近で雨も一旦止



みかけたが単なるぬか喜びだった。結局はゆっくり休憩もとれずにP2555mからは丁度北西からの冷たい風を感じながら黒部五郎岳本峰を登ることになった。狭い視界の中でもさすがに今迄の登りとは違いう急で大きな山肌を感じながら一步一步と高度を上げていく。



黒部五郎岳の肩は風を遮るものもなく冷たい風が抜けている、予定では山頂から稜線を通しに下るつもりだったが、雨と冷風に長い時間晒されるのは低体温へのリスクも高いと考え風向きからカール経由で五郎小屋へ下るのが適切と判断し、メンバーには申し訳なかったが、山頂へは行かずに肩からカール経由で小屋へ向かうことにした。

左へ少し岩道を進み一気にカールへの急下降路に入る、冷風はなくなり雨とガスの道だが満開の花々が迎えてくれた。

特に今年はコバイケイソウの当たり年なのでここまで咲くか！の群落などに慰められながら下り、岩ゴロではあるが残雪・花・雪解けの清流(今日は雨も)で飾られたのカールを歩き、更にダケカンバの樹林の道を抜けると一面のコバイケイソウに囲まれた黒部五郎小屋に着いた。着くと同時に降り続いた雨も小康状態となった。直ちにチェックイン、どのパーティも濡れ物の乾燥に大わらわとなっていた。寝具一枚=1人確保できて外とは違いスタッフの対応も含めて快適な小屋だった。明日も雨模様との情報が外れることを祈りつつ就寝 zzz...



8/6 さて天気は?? 相変わらずどんよりガスが...でも雨は落ちてないような。しかし、さて出発と外へ出ると同時に待っていたようにポツリと来た。予報通り今日も雨中の登行で始まった。小屋裏方面へ岩っぽい急な登りを行く。しばらく登り振



る。急傾斜も道はジグザクに付けられて一定のリズムで歩けるため良い登山道がある、さすがに裏でもギンザ道?? 約2時間かかれガスを流すのに。コースの登りを

り返ると黒部五郎岳がでかい姿を見せてくれていた。どうやら昨日よりはいくらか雲も薄いのかも知れない。森林限界付近で尾根筋の道となりハイマツや高山植物の道に登る。

三俣山荘への巻道分岐辺りで雨も止み加減となり周囲の視界も開けてきた。山頂を経由する道を登っていくが、雨上がり、ガスが山肌を絡みながら上昇していく、光景はいつも美しく、ウレシイものである。三俣蓮華岳山頂は一昨年

に立った時とは違って少し冷たい風があるものの、展望は良くて、岩尾根の姿も大きい。やはり北アのいや日本の高峰のシンボルはこの山なのだろうと感じさせる風格である。



思い思いに写真を撮り、雨も止んだことで気分も明るく三俣山荘に向かう。

急下降からハイマツ帯テント場を抜けて山荘へ、っとメンバーがテント場に足を取られて、歯と口を切るアクシデントが発生。幸いにも三俣山荘の診療所が近かったのと、その後も山行を継続できる程度だったのは不幸中の幸いだったが、当初は明日は下山かとの思いもよぎった。山では何時誰にでも起こりうることなので、改めて山では常に気を引き締めよ!との教訓と受け止めたいと思う。

治療と行程一番の鷲羽岳の登りに備えてゆっくり休憩をとり、立ち足はだかる巨



大な鷲羽の稜線に向かう。この頃には雲間から折青空も見られるようになり、やっと夏山らしい気分にもなり、快調に高度が上

がる。急傾斜も道はジグザクに付けられて一定のリズムで歩けるため良い登山道がある、さすがに裏でもギンザ道??

約2時間かかれガスを流すのに。コースの登りを



なしたことで気分爽快ウキウキ気分(オイラだけ?)の昼食になった。

ここからは時々ガスが視界を遮るものの北ア真っ只中の稜線歩きを楽しむ。岩塊のワリモ



岳を過ぎ、北二庭おを小後と山並の登りを花に慰められながら登り切ると山巔に建つような水晶小屋に着く、新しくなったとは言え定員30人に今の時期は倍程登山者が宿泊する。2階の居室は梁のフックにザックをぶら下げ布団1枚に2人が割り当てられて寝ることになった。夕食後外は一面の白いベールと冷たい風、でも明日からは天気は良さそうだ。

そして、右が他パーティだったこともあったが、寝返りもはばかれる一夜となったが、ひたすら耐えて朝4時まで体を休める。

8/7 夜中、頭上の窓からは星の瞬きが見える、天気は予想通り良さそうだが窓を叩く風が少々気になる。



起床と同時にザックを撤収して外へ、水晶岳へのピストンに備えてサブザックを用意してから、朝食に並ぶ。この小屋で雨でなくて良かった。

5時35分に水晶岳へ出発となった。昨日までの天候を取り返すかの様に快晴の北アの山並を存分に眺めながらの歩きになった。意外と近くに見えるが途中から岩回り込み更に岩道になった。ありきたりだが素晴らしい眺めだ、黒部五郎岳、巨匠の赤牛岳をめぐり北アのジャント群を堪能できる。それ



8/7 夜中、頭上の窓からは星の瞬きが見える、天気は予想通り良さそうだが窓を叩く風が少々気になる。



8/7 夜中、頭上の窓からは星の瞬きが見える、天気は予想通り良さそうだが窓を叩く風が少々気になる。

ぞれ写真を撮りまくってから山頂を辞した。

水晶小屋で体制を整えて、裏銀座ルート今日の宿舎の烏帽子小屋に向けてまずは下りから踏み出した。

迫力のガレを見て痩せた稜線を下り、小さな岩場が連続して下っていき、東沢乗越で一息入れる、この辺りから真砂岳



迄が今日のポイントだの登り道に並ぶ。周りは山並みの雄大な中、今を盛りにお供に歩く夏辛優れが、以前と比べるとさが勝ってしまうから巻いて過ぎ、ザレへと展望台である、北アの放題である。しばし

み雄大な中、今を盛りにお供に歩く夏辛優れが、以前と比べるとさが勝ってしまうから巻いて過ぎ、ザレへと展望台である、北アの放題である。しばし



真砂岳は左岳野口五郎の360度の主峰とコーヒを沸し更にも重さを背負った果物で時間をメンバーに感謝する。



真砂岳は左岳野口五郎の360度の主峰とコーヒを沸し更にも重さを背負った果物で時間をメンバーに感謝する。

山頂から野口五郎小屋に寄ってから、次の三ツ岳に向かう、今日は常に森林限界を超えているために頻りに岩場を交えた登降が続く。そんな環境にも目を楽しませてくれる花々はけなげ?

三ツ岳へは東側の巻道、お花畑コースをとり花と雪溪を見て三ツ岳は左を巻いて行く。ザレの多い道になるとそこかしこにコマクサが見られるようになった、やや時期は遅いが見かけに寄らず遅い彼らである。

三ツ岳の頂稜の端から稜線は右に折れ、烏帽子小屋へと下っ



て行く。ザレの下り、相変わらずの小さな岩道の登降を経てダケカンバの樹林帯まで高度も下がると右に池を見てテント場から少し登って烏帽子小屋へ着いた。さすがに4日目ともなり、あ〜あ ぐたびれた！

夕食までは長きに背負ってくれた食糧と飲物で歓談。食後も小屋前で夕日が沈むまで写真撮りなどを楽しんだ。



今夜は個室、昨夜と違ってゆっくり手足を伸ばして寝られそうでもこれウレシイ。烏帽子小屋、昔風だがどこか懐かしさもあっていい感じ（スタッフも）、何より空いているのが有難かった。

8/8 4時起床、今日は最終日烏帽子岳を往復してから高瀬ダムへの下山である。ゆったりと朝食もできて小屋にザックをデポして小屋で待機の名を残して烏帽子岳に向かう、不動岳方面に僅か進み花崗岩砂の稜線をコマクサと展望の



を前（ニセ）烏帽子に登ると正面に特徴する岩峰の烏帽子岳が目に入る。あれを登るか？まあ、取付き迄だけでも行って

るか、とここから戻る1人と別れて先へ。一旦下り、頂上450mとある道標で縦走路と別れ左へ、結局岩峰を回り込む様に付けられた道を急登して頂上下に出る。

ここからはクサリを伝って岩登りになる。何とか行けそうなレベルのようなので、クサリを掴む、まずは乾徳山頂の岩場を思い起こさせる岩場を直上して、次に劔岳のヨコバイに似たトラバースの

と5~6mの岩場を登って頂上の岩塊下に着く。そこからは2~3人しか立てない頂上岩塊に残置ボルトも利用して登り頂上標柱にタッチして登頂終了だ。



迎ってきた山並を眺めしばし灌漑に。で、交代で登り往路を烏帽子小屋まで戻った。

さあ後はブナ立尾根の下りだけであるが、日本三大急登と言われる道なので気は抜けない。

7時35分に小屋を後に下山にかかった。少し登って尾根を下り、急メインストリートの下り道ではない。



三角点は休憩してからは登り登山者や、今迄行違う垂高山帯の草花も多くなって脚も止まることも多かったです。



ていたって快調に下る。

灌木帯から樹林帯へ、濁沢の大崩壊などに圧倒されつつ沢音も大きくなり、棧道の階段を下って裏銀座登山口の導標のある濁沢に降り立つ。水場で顔を洗って、丸木橋を渡り、河原〜ト歩

り、吊り橋〜ト歩いて高瀬ダムに出る。待機して一に増車依



頼、いつもの？大町温泉郷『薬師の湯』で下山の乾杯となって完了になった。

とにかく全員で予定日数を完歩でき、一緒に帰路につくことができたことで先ずは成功としたい。

メンバー諸氏の素晴らしい歩き、日頃のトレーニングと準備の成果を存分に発揮いただいて敬服した次第です。

今年も夏山へ参加いただきありがとうございました。

できるならば皆さんとまた達成感のある充実した山行をしたいと思いますが、今回長期間山行の限界も感じ始めたので、ムスカシイかな(-_-)

(記&写真・涌井 良明)